

ご参加ください！

いきもの住民会議開催！

身近ないきものを楽しむ

～昆虫の観察と記録のしかた

昨年の8月に開催し、大好評だった『東大駒場キャンパスの虫たち観察会』を、タイトルを変えて今年も開催！都市の『森』に隠れるいろいろな昆虫たちを探し、昆虫の不思議な生態を探ってみませんか？観察方法や採取法、調査や記録の仕方・まとめ方などを通して、生物多様性の大切さを楽しく学びます。



楽しいお話



みどり豊かな
東大構内

会 場: 東京大学駒場Ⅰキャンパス（仮）

日 時: 平成27年9月20日（日）9:30～12:00

（受け付けは9:00～）

講 師: 加藤俊英氏（東京大学教養学部附属教養教育高度化機構社会連携部門特任助教）

定 員: 30名（抽選）

対 象: おおむね小学校3年生以上（小学生は保護者同伴）

費 用: 保険料1人50円

申込方法: ハガキ又はファックスに、①講座名「身近ないきものを楽しむ」、②参加者全員の氏名・年齢、③住所・連絡先を明記し、9月11日（金）（消印有効）までに、みどり公園課みどりの係へ。（参加人数が決定次第通知をお送りいたします。）

※参加者には、野外で使えるフィールドノートを差し上げます

夏休みから1か月。この1か月で見られる昆虫はどう変わるのか、今年初めて昆虫採集する方はもちろん、今年夏休みの自由研究で昆虫採集を行った方も、虫たちの様子や変化をじっくり観察してみましよう！



目黒区いきもの住民台帳

『目黒区の野鳥』作成！

『目黒区いきもの住民台帳』は自然通信員や、区などの行った専門調査の結果を、目黒区に生息・生育する生物の種名リストとして集計したもので、2009年におよそ3000種類の動植物や菌類を掲載した暫定版を公開しています。今回はこのうち鳥類について、その後の観察情報などを含めて整理集計したものです。(A4 番 28 ページ)



区立図書館や目黒区 HP で内容をご覧ください。



【内容紹介】

●目黒区の野鳥の概要

目黒区の野鳥の記録種数は、在来種139種、外来等(外来種および飼育種)33種、合計172種です。渡りの区分別にみると冬鳥が41種と最も多く、旅鳥36種、留鳥29種と続きます。

渡りの区分(目黒区を基準に区分)

留鳥(りゅうちょう)：ある地域で一年中見られる鳥(カルガモ、スズメ、シジュウカラなど) **夏鳥**(なつどり)：春に南の地域から渡って来て繁殖し、秋には南の地域に渡る鳥(コアジサシ、ツバメなど) **冬鳥**(ふゆどり)：春から夏にかけて北の地域で繁殖し、秋に渡って来て越冬し、春には北の地域に渡る鳥(ウグイス、ジョウビタキ、ツグミなど) **旅鳥**(たびどり)：春秋の渡りの途中に見られるもの(キビタキ、エゾビタキ、サンコウチョウなど) **不明**：目黒区で観察例が極めて少なく(まれ)、冬鳥か旅鳥、迷鳥(本来の分布域から外れて渡って来た鳥)などの区分ができないもの **外来等**：外来種は、外国産の野鳥が、ペットなどとして輸入され、逃げたり放されるなどして野外で見られたもの。飼育種は、日本の野鳥だが、飼育されていたものが、同様に野外で見られたもの。

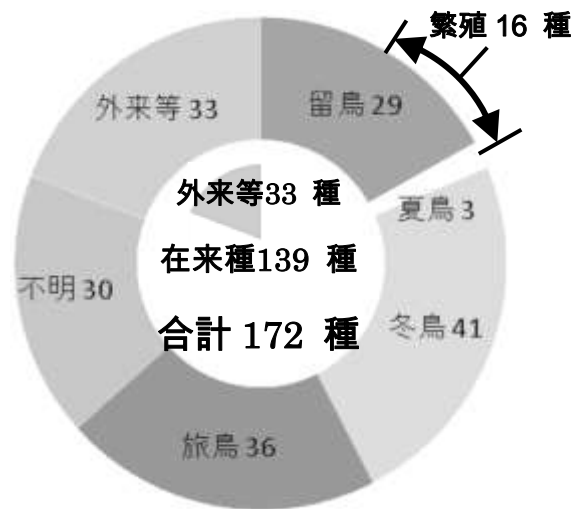


図4 渡りの区分別の種数

【観察記録の紹介】



57 コゲラ *Dendrocopos kizuki*

留鳥。繁殖。1980年代から区内で見られるようになり、各地で繁殖するようになった【記録】523件 ○1998年4月下目黒アンテナを盛んに叩く○1998年6月16日田道小学校(目黒)1羽 プールのヤゴ採り作業中上空通過○2004年5月7日駒場野公園シナノキで営巣



目黒区は区民の皆さまと共に、『生物多様性地域戦略 ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画』を推進しています。